

日本の民间传说～很久很久以前～

老鼠相扑

很久很久以前，某个地方住着一位老爷爷和一位老奶奶。有一天，老爷爷到山里去砍柴，有一只胖老鼠和一只瘦老鼠，两只老鼠正在比赛相扑。老爷爷走去一看，“拿出斗志，获胜加油！……拿出斗志，获胜加油！”，赛了好几次都是瘦老鼠输。“那只瘦老鼠不是住在我家的老鼠吗”。



回到家后，老爷爷将这事说给老奶奶听，两人都觉得那只瘦老鼠很可怜。虽然老爷爷和老奶奶家里很穷，但他们还是拿出了过年用的糯米给瘦老鼠做了年糕，放在天棚上。

第二天，老爷爷和昨天一样偷偷地去看，老鼠的相扑比赛又开始了。总是输的瘦老鼠今天赢了。老爷爷非常高兴。较量了好几次，胖老鼠问瘦老鼠道：“为什么你突然变得那么强了？”，瘦老鼠回答说：“昨天回到家，非常庆幸地天棚上放了年糕，我就是吃了那个”，胖老鼠听了：“真好，我家虽然很有钱，但主人很小气，年糕什么的从来没有拿到过”。于是瘦老鼠说：“这样的话，今天来我家一起吃年糕吧”。老爷爷听到这话，急急忙忙地赶回家，和老奶奶商量。两人为了这两只老鼠相扑力士，决定把剩下的年糕也给它们。另外还做了两条红布兜来代替兜裆布放在天棚上。

当天晚上，胖老鼠来到了老爷爷和老奶奶家里，两只老鼠看到年糕和兜裆布兜非常高兴。为了表示感谢胖老鼠留下了从家里带来的金币。

第二天，两只老鼠系上红色的兜裆布比赛相扑，相互间棋逢对手胜负难分，老爷爷作为观众看得非常高兴。并且老爷爷和老奶奶又用金币买了很多过年用的年糕和米。

にほんむかしばなし 日本の昔話～むかし、むかし～

ねずみすもう ネズミの相撲

昔々ある所に、お爺さんとお婆さんが住んでいました。ある日お爺さんが山に芝刈りに行くと、太ったネズミと痩せネズミ、2匹のネズミが相撲を取っているではありませんか。お爺さんが見ていると「ハッケヨーイ、ノコッタ！……ハッケヨーイ、ノコッタ！……何度やってもいつも負けるのは痩せネズミです。「あの痩せネズミはうちに住んでいるネズミじゃないか」。

家に帰るとお爺さんはお婆さんにこの話をし、2人は痩せネズミをかわいそうに思いました。お爺さんとお婆さんの家は貧乏でしたが、お正月のために置いておいたもち米をついて瘦せネズミに餅を作ってやり、屋根裏に置いておきました。

次の日、お爺さんが昨日と同じようにそっと覗いていると、またネズミの相撲が始まりました。負けてばかりだった痩せネズミが、今日は勝っています。お爺さんは嬉しくなりました。何度か勝負をすると、太ったネズミが「どうしてそんなに急に強くなったんだい？」と痩せネズミに訊きました。「昨日帰ったら、ありがたいことに屋根裏にお餅が置いてあり、それを食べたんだ」と痩せネズミが答えると「いいなあ。うちの家はお金持ちなのにケチだからお餅なんかもらったことはないよ」と太ったネズミ。痩せネズミは「それなら、今晚うちに来て、お餅を食べるといいよ」。それを聞いたお爺さんは、急いで家に戻り、お婆さんと相談しました。2人は2匹の相撲取りのために、残りのお餅もついてやることにしました。そしてまわしの代わりとして赤いふんどしも2匹分作って、屋根裏に置いておきました。

その夜、お爺さんとお婆さんの家に太ったネズミがやってきて、2匹はお餅とふんどしにおおよろこび、太ったネズミはお札にと家から持ってきた金貨を置いていきました。

次の日から2匹は赤いふんどしを締めて相撲を取り、お互いに勝ったり負けたりいい勝負をして、観客となったお爺さんを楽しませましたとき。そしてお爺さんとお婆さんは金貨で正月の餅や米をたくさん買うことができましたとき。